



【いじめをしない させない 見逃さない 白根小】

新潟市立白根小学校 学校だより

白小だより

【白根に生きる子ども～白小を大好きな子 白根を愛する子 白根を考える子～】を目指して！

令和8年1月号

【教育目標】

ゆたかに

かしこく

たくましく

新しい午年を迎えて

校長 飯原 清仁



新年明けましておめでとうございます。

いよいよ、令和8年がスタートしました。午年は、十二支の七番目にあたり、力強くまっすぐしなやかに疾走する姿から、物事が順調に進み努力が実る縁起のよい年になると言われています。この素晴らしい新年を迎え、大きな明るい夢を描いてのびのびと育っていく白根小の子どもたちに幸多かれと祈らずにはいられません。

さて、冬休み明けの後期後半は、授業日数が少なくあっという間に4月の新学期を迎えます。しかし、学年のまとめとしてとても大切な時期となります。とりわけ6年生は、小学校を卒業して中学生になる準備の期間となります。先生方、友達と一緒にここ白根小学校に素晴らしい思い出をたくさん作ってほしいと願っています。また、1年生もすっかり学校生活に慣れ、入学時にはできなかったことができるようになったり、分かるようになったりしたことが増えてきました。2から5年生も確実な成長の歩みが見られます。一日一日の成長には、なかなか気が付きませんが、一年を通してみると改めて子どもたちの成長のスピードに目を見張る思いがします。一日一日を大切に、後期後半を過ごしていきましょう。

新年を迎え、とてもうれしいニュースがありました。第102回東京箱根間往復大学駅伝にて、青山学院大学が従来の大会記録を大幅に更新する10時間37分34秒で3年連続9度目の総合優勝を果たしました。私自身もテレビから目が離せないほど、若者の頑張る姿に毎年大きな勇気と感動を頂いているのですが、今年はその中で、とても心に残った名言がありました。それは、「生まれて初めてうれし涙を流しました」という言葉です。この言葉は、往路5区で驚異的な区間新記録をマークし、今大会でMVPを受賞した黒田朝日主将の言葉です。黒田主将は、「駅伝は1人の力で勝てるものではない。みんなが役割を全うして総合優勝に結びついたので、みんなに“ありがとう”と伝えたい」という、うれし涙の理由も表しています。今、学校では、令和の日本型学校教育を推進しています。社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、従来の日本型学校教育を発展させ、全ての児童の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る、学校教育を目指しています。いよいよ配付される新しいタブレット端末（GIGAスクール構想）もその一環です。黒田選手の名言ではないですが、協働的な学びを推進し、友達としっかりとかわり合いながら一人では味わえない学びを深めていきたいと考えています。

子どもたち一人一人の学びに寄り添い、誰一人も取り残さない授業づくりや友達とかわり合いのある授業の展開に全職員で推進して参ります。また、職員だけでなく、保護者、地域の皆様方のご協力も得て、共に子どもたちの教育を支えていきたいと考えております。たくさんの皆様方のご理解とご協力、そしてご支援を本年もよろしくお願いいたします。

